＝　病院の理念　＝
人間の尊厳と患者の権利を守り、安全・安心の医療、差別のない医療、納得の医療を患者様や地域の方々とともに目指します。

東葛の健康

№ 459　11月号　2022年
〔毎月５日発行　定価１部20円〕
発行　東京勤労者医療会東葛病院
院長　井上　均

〒270-0153　千葉県流山市中102-1
TEL 04（7159）1011㈹
FAX 04（7158）9202
http://www.tokatsu-hp.com/services/out/organization/

医療活動継続に必要な課題

東葛の医療　受療権

患者の「受療権を守る」を念頭に

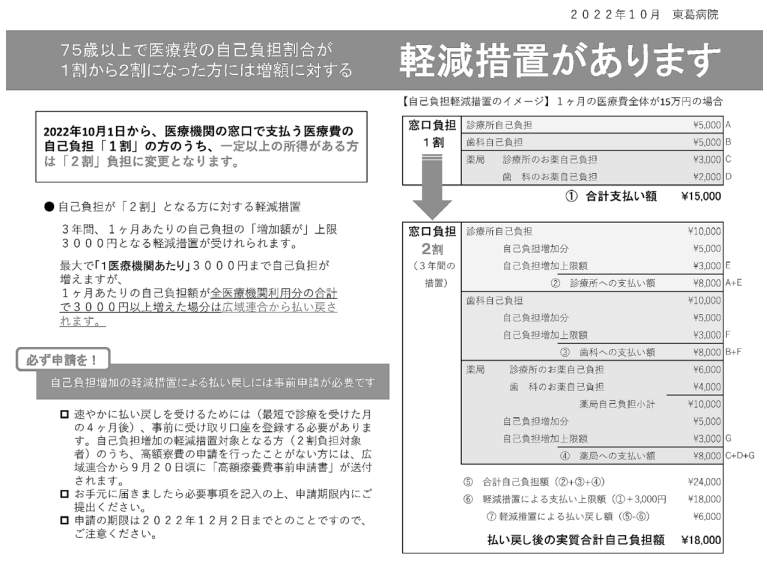
萩原正臣事務長

始まった窓口負担２割化

２０２２年10月より、75歳以上で一定以上の所得のある方の医療費窓口負担２割化が開始されています。

６月からの年金の引き下げ、ウクライナ情勢などを反映した物価高騰でそもそも暮らしの困難さが増しているなか、追い打ちをかける制度の改悪です。全日本民医連で行われている「手遅れ死亡調査」では毎年相当数の事例が挙げられており、経済的に苦しい方にとって医療機関への受診は二の次三の次となり、受診を我慢して手遅れになることが多いのです。まさに今回の窓口負担２割化いや２倍化は、高齢者の受療権が大いに脅かされ、受診抑制に拍車がかかるものです。

負担軽減措置として、施行後３年間は、１ヶ月の外来医療費の窓口負担増加金額について、３，０００円を超えた分の金額が高額療養費として払い戻されます。同一医療機関の合算や薬局分も合算可能な場合もあることや、高額療養費の口座登録がない場合は申請が必要になるなど、詳細は各自治体ホームページを参照、またはお問い合わせ願います。



医療機関の光熱費も増大

電気代やガス代の高騰は家計のみならず医療機関にとっても大きな経営上の圧迫となっています。

当院でも４月―９月の半年で、ガス代は１，０２０万円（前年差＋２４０万円）、電気代は５，２００万円（前年差＋１，５００万円）と大変な費用増になっています。医療機関は、他のサービス業と異なり、高騰した分を患者さんへ価格転嫁させることは法令上不可能となっており、費用だけが増えていく状況です。

例えば、コロナ禍で換気の必要性は大いに増しており、感染者数が落ち着いたとしても、おそらく今後感染対策としては標準的となり、その分光熱費等の経費はコロナ前より格段に上がっていくことは想像に難くありません。「地方創生臨時交付金」「電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援地方交付金」など国が各自治体に活用をすすめている交付金を、各自治体は積極的に活用して欲しいです。

コロナ関連補助金が減額

コロナ関連の補助金、いわゆる空床確保料の見直しが図られました。この間、

・空床確保料は、確保病床1床に対して休床2床まで

・千葉県独自事業であった、空床確保料への1万円の上積みの廃止

・同じく千葉県独自事業であった、入院受入協力金の減額から廃止

と昨年までの補助金が１／２から１／３程度まで減額されました。

今回、病床使用率50％以下で、かつコロナ前の２０１９年の診療収入を1割超えている医療機関は、さらに補助金が調整される（減額あるいは無し）というルールに変更されました。

以前にもお伝えしましたが、医療機関の経営は度重なる診療報酬改定で引き下げられ続け、ギリギリの状態を維持していたところに、コロナによる患者減等で大打撃を受け、閉院する医療機関も出たほどです。補助金を受けているにもかかわらず、患者さんをあまり受けていないという一部医療機関もあるようですが、ほとんどの医療機関は使命感を持って一人でも多くの患者さんのいのちを救おうと懸命に取り組んでいます。誤った認識のもとに制度が改定され続けていることに怒りを覚えます。

……

前半では萩原事務長が、東葛病院が抱える問題（医療活動を継続させるための課題）に焦点を当て、読者の皆様にご理解を求めました。後半は東葛病院を取り巻く社会情勢と運動課題を病院組織部の新井が担当します。

病院を取り巻く情勢

私たち東葛病院は加盟する全日本民主医療機関連合会の運動方針を実践する立場で大きく３つの分野の活動を重視し、患者さん・共同組織のみなさんとともに取り組んできました。それは

①憲法・９条を守る活動

②平和・核兵器・原発ゼロを実現する活動

③人権を守るたたかい・人権としての社会保障の実現をめざす活動

75歳以上の医療費窓口負担２割化の中止を求める請願は、１５００筆の署名で国会に要請を行いました。これからも「中止」をねばり強くすすめます。同時に安倍元政権発足後に強引にすすめられた最大10％の生活保護費引き下げは憲法違反と、全国29カ所で提訴された「いのちの砦」裁判は多くの地裁で勝利しています。これからもしっかりと支援していきます。

憲法・９条を守る活動

「憲法改悪を許さない全国署名」の到達は全体で１万６千筆（目標10万筆）。この間安倍元首相「国葬」反対の活動とも合わせ、取り組んできましたが、まだまだ世論を巻き込む活動には道半ばです。

平和・核兵器・原発ゼロを実現する活動

日米地位協定の改定を求める署名や核兵器禁止条約の署名・批准を政府に求める署名活動を中心に、原水禁世界大会には現地に職員・共同組織７名が参加。沖縄県知事選挙玉城デニーさんの再選を支援する活動も同時に行いました。沖縄県名護市辺野古への米軍新基地建設中止、原発ゼロ基本法制定を求める活動、原発の運転期間延長の黙認問題、オスプレイ配備撤回などまだまだ課題は多く長期の活動が必要です。

人権を守るたたかい・人権としての社会保障の実現をめざす活動

75歳以上の医療費窓口負担２割化の中止を求める請願は、１５００筆の署名で国会に要請を行いました。これからも「中止」をねばり強くすすめます。同時に安倍元政権発足後に強引にすすめられた最大10％の生活保護費引き下げは憲法違反と、全国29カ所で提訴された「いのちの砦」裁判は多くの地裁で勝利しています。これからもしっかりと支援していきます。

介護保険見直し（改悪）の動き

この秋から年明けの大きな運動課題に「介護保険の改善を」があります。75歳以上の医療費窓口負担２割化を「実現」させた政府が、次のターゲットにしているのは「介護保険見直し」です。利用料２割・３割負担の対象を拡大し、要介護１、２のサービス削減、ケアプラン作成への自己負担導入、福祉用具の貸与をなくすなど来年の通常国会に向け準備中です。防衛費６兆円時代の費用は、医療費負担の拡大と介護保険見直しではかられると見る識者も多いです。

現在友の会の仲間ふやし拡大「月間」が旺盛に取り組まれています。地域の健康班会や訪問行動、情宣活動、青空健康チェックなどを通し、会員の輪を広げていきたいと考えます。ご協力ご支援をお願いします。

聴診器

蕎麦屋の若い衆が岡持ちぶら下げて出前に行けるバイクをつくれ▼本田宗一郎が「スーパーカブ」開発時に叱咤した言葉と伝わる▼良くできたハナシとも思うが、左手・左足は大いに自由が利くバイクだ▼キャブレター方式のスーパーカブを乗り継いで４台目だ。整備さえすれば10万キロ・15万キロは普通に走る▼「新聞屋さん・郵便屋さん・牛乳屋さんのバイクね」と言えば目に浮かぶか、ホンダは特許申請を行わず、スズキやヤマハにもこの形式のバイクがあり、元気に走っているところも嬉しい▼バリバリの実用車のため、修理に次ぐ修理、１９５８年デビューのこのバイクのオリジナルは長く確認できなかった▼納屋に放置された初期型で手の入ってない個体が３００万でオークション落札。タミヤ模型カブのプラモデルのシート色がこれを受けて変わったとも聞いた▼非力だが実用性充分。リッター60キロは走る。大好きで乗っている人はさしずめスーパーカブに乗るスーパーマンかな　（よ）